
目次

【1】 --- 教員コラム 18 弾 第 7 回「図書館について思うこと」

看護倫理・管理学 / 宮田千春

【2】 --- 特別な寄附返礼品

【3】 --- さよなら個人閲覧室

【4】 --- メディカルオンラインで動画が見られます

【5】 --- [御礼] 秋の読書週間

[Book Review] ……編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム 18 弾 第 7 回「図書館について思うこと」

看護倫理・管理学 / 宮田千春

各都道府県の自治体が設置する公立図書館は、施設の利用、書籍などの資料を無料で地域住民が利用できる贅沢な唯一無二の空間であると思う。防衛省に勤務していたころは、業務の特殊性から、札幌・静岡・東京・熊本・兵庫と 3~5 年のスパンで日本を縦断するように勤務した。そのため、引っ越しのことを考えると、できるだけ余分な物は増やさないと気持ち強く、本は専ら各地の公立図書館を利用してきた。若いころは、語学の勉強のために図書館にある TOEFL や TOEIC の参考書を積み上げて勉強し、海外旅行の際は今のようインターネットが普及していない時代だったので図書館から借りた「地球の歩き方」が重宝した。また、育児中には小さな娘を連れて絵本を見たり、読み聞かせのイベントに参加したり、娘と静かで快適な時間を過ごせる貴重な場所を提供してくれた。

現在は大阪在住 11 年目となり、大阪府内の図書館で一番のお気に入り、自宅からほど近い「大阪府立中之島図書館」である。中之島図書館は、日本銀行大阪支店、大阪市役所、中央公会堂と並び重厚なネオバロック調の石造の素晴らしい建築群の一つである。モダン

なビルが立ち並ぶ粋な中之島周辺にありながら、その存在感は一際目をひく。また、歴史的建築物であるという魅力に加えて、古文書を中心にビジネスや経済・経営の関連書籍、いわゆるマネジメント領域の豊富な書籍や資料が私を魅了し、ワクワクとした気持ちにさせてくれる。さらに、様々な年代のスーツ姿の会社員風の方々が貸出・返却カウンターに列をなし、資料をみながら手書きでメモをしてる年配の方やパソコンで仕事をしている人、幅広い世代の方の便利な書齋・オフィス化していて、これもお気に入りの空気感である。

最近、書籍紹介コーナーに「KAIZEN」という文字を多く見かける。「KAIZEN」とは、日本語の「改善」という言葉から派生し、国際的にも使われるようになってきている言葉である。しかしながら、本来の日本語の悪い点を良くするという「改善」の意味とは異なり、悪い点が無くても現状に満足せず、あらゆる側面を継続的に改善していくプロセスである。

「KAIZEN」の最も代表的事例がトヨタ式カイゼンであり、「作業や業務の中にあるムダを排除し、より価値が高い作業だけをおこなえるように、作業や業務のやり方を変える活動」である。最近のビジネスの業界においては、様々な品質不祥事を受けて「品質管理 (Quality Control)」に注力することが求められ、業務改善を効果的に進めるツールへの関心が高いのかと考えさせられる。この「KAIZEN」は、国際的にもヘルスケア領域においても活用されており、国内の代表的な一例にトヨタ記念病院が取り組んだ「看護師による搬送業務の負担軽減」、「看護師の声を取り入れたロボットの活用」による「患者との時間の創出」がある。

「KAIZEN」に関するいくつかの書籍をめくりながら、ヘルスケア領域においてももっと、医療・看護サービスの「KAIZEN」に取り組むべきではないかなど自分の研究テーマとして思いを巡らす。

今回、図書館や図書について考える貴重な機会を頂いた。実のところ、公立図書館がその時々で異なる私のニーズを十分に満たしてくれた存在であったにもかかわらず、その一つ一つが、どこの図書館だったかまでは思い出せなかった。年のせいかなと少し悲しくなったが、図書館という貴重な存在からの受けた恩恵に感謝するとともに、そのありがたみを認識しながら、今後も図書館を利用していこうという気持ちになった。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 特別な寄附返礼品

.....

2024年11月から、インターネットで「京都府立医科大学附属図書館」へ5000円以上寄附いただいた方へ、寄附額に応じた特別な返礼品を用意しました。申込の際にお好きな返礼品を選んでいただけます。

- A.大学本部棟デザインペーパーウエイト（寄附額 20,000 円～）
- B.法医学カレー（寄附額 5,000 円～）
- C.マグネットしおり＝2023 年秋の読書週間で金賞に輝いた作品を製品化しました。
（寄附額 5,000 円～）
- D.手ぬぐい（寄付額 5,000 円～）

一覧は[こちら](#)から。

図書館ホームページ「[ご寄附のお願い](#)」からインターネットでお申込みいただけます。
返礼品の提供は、インターネット申込に限ります。「クレジットカード決済」「コンビニエンスストア決済」「インターネットバンキング決済（Pay-easy）」「銀行振込」から決済方法をお選びください。

【3】 --- さよなら個人閲覧室

.....

図書館 1 階にラーニングコモンズを設置する工事に備え、[個人閲覧室](#)は 12 月上旬までの利用とします。1992 年の開館以来、個室は 1 人で静かに自習したい方のために 5 室備え、コロナ禍でも大変人気のあった部屋でした。ラーニングコモンズ設置後は、集中して勉強できる 1 人用のブースを設ける予定です。これまで個室をご愛用いただいた皆様にはご不便をおかけしますが、新しいスペースにどうぞご期待ください。

【4】 --- メディカルオンラインで動画が見られます

.....

『[メディカルオンライン](#)』では医療従事者、医療系学生を対象にした動画配信サービス「[Medical*Online Video](#)（メディカルオンライン ビデオ）」を開始しました。理学療法分野および診療放射線分野の動画約 400 本を配信し、順次、手術、診療ガイドライン解説、医療系教育講演、看護、作業療法、言語聴覚、視覚機能訓練、臨床検査、臨床工学、医療法律相談等のコンテンツを配信する予定です。
これらの動画は授業での利用も可能です。
利用には、My ページの登録が必要です。詳細は[こちら](#)。

学外からは、[学認認証](#)で『メディカルオンライン』にアクセスできます。

【5】 --- 【御礼】 秋の読書週間

.....

「2024 秋の読書週間」企画に多数のご応募、ありがとうございました。各企画の報告と今後の展開をお知らせします。[実施期間] 2024/10/16(水)~11/9(土)

その1. 「シェイクスピアと私」 北村薫氏 & 松岡和子氏の特別対談

[日時] 2024/11/7(木)15:00~17:00

[レポ]

北村先生は、「歩く図書館」と言われるほど知識が豊富で、どんな話題も掘り下げ、分かりやすく展開してくださいます。今回は、本学木塚教授の恩師でいらっしゃるご縁でお招きすることができました。司会を務めてくださった木塚教授によるご紹介も漫画を使ったりと、ユニークでした。

松岡先生は、シェイクスピアの全作品を翻訳した、日本で3人目の方です。これまで「ロミオ様」とか「ロミオ殿」と訳されていた呼称を「ロミオ」と呼び捨てに訳されました。北村先生曰く、これは前時代の日本では考えられないことであり、例えば『サザエさん』でフネさんが夫の事を「波平」と呼び捨てにすることと同じであるとおっしゃいます。そんな流れで、お2人が夫または妻のことをどう呼んでいるかなど、先生方の素顔を垣間見ることができました。

『オセロー』では妻デズデモーナに対し、「my girl」と呼びかける台詞があります。シェイクスピアの他の作品では、「my girl」は父が娘を呼ぶ時に使われる呼称ですので、デズデモーナ役はマクベス役と年の差がある若い女優が演じる方が良い、というお話。また、太陽を意味する「sun」は耳で聞くと、「son」(息子)と似ているので、原書では意味をかけていますが、日本語に訳す時はどちらかの表現を諦めるか、文章を長くしなければいけません。多くの台詞に多層な意味があって、バームクーヘンのように薄く重なっているが、翻訳する時には、縦に切らないといけないのが、難しいところであり、面白いところなのだそうです。

最後に松岡先生の好きなシェイクスピアのセリフ、『マクベス』の tomorrow speech を聞かせていただきました。松岡先生が語る台詞が図書館ホールに響き、とても美しい空間になりました。

その2. しおりコンテスト

[応募総数] 18点

学内外よりデータで、手書きで、魅力的なデザインが集まりました。
[作品発表] 優秀作品を選定し、ご本人にご連絡すると共に、館内やホームページで展示します。

その3.としょかん川柳

[応募総数] 1277 点

図書館や本に関する川柳が、学内外からびっくりするほど届きました。

[作品発表] 図書館員全員で全ての句に目を通し、数回の審査を経て優秀作品を選定します。結果はご本人に連絡すると共に、ホームページ等で発表します。

その4.電動モビリティ(LUUP)クーポンプレゼント

期間中に資料を借りた利用者 50 名に初回 30 分無料クーポンを配布しました。

[Book Review]

.....

佐藤愛子『私の遺言』（新潮社 2002 年）

著者が眺望の素晴らしさに魅せられ、北海道浦河町の山の中腹の土地を買い、そこに夏の家を建てた時から超常現象に悩まされるようになる。夜中に水を撒く音。屋根裏をノッシノッシと人が歩く音。電気の点滅。荷物が消えるなど様々な怪現象が起こり、それは長じて、東京の自宅でも、旅先でも起こるようになる。霊能者によると、昔ここはアイヌの人たちの祀り事を行う場所であり、住処だった。その大切な山を家を建てる為に切り崩してしまった事で、アイヌの霊の怒りを買ってしまったのだそうだ。「苦難は逃げずに立ち向かう！」が信条の著者。真っ向勝負とばかりに、次々起こる不可思議な出来事に対峙していく。様々な霊に翻弄されながら、著者はここからどの様にして「遺言」という思いに至っていくのか… (A.M)(京都府立図書館所蔵 [「K-Libnet」](#) で貸出が可能です)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/410106413X>

.....

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/mailnews.html>